

成長過程のクリスチャンのための10の鍵

2. 信仰—エレベーターは下にも連れて行く

ある若い男性が、私を見て言った。

「聖書の中に書かれていても、信じるのが難しいことがいくつもある。」

私は笑顔でこう尋ねた。

「あなたの名前は？」

彼が「ポール」と答えると、私は何気なく答えた。

「私はあなたを信じない。」

彼はいぶかしそうに私を見た。

私は繰り返した。

「あなたの名前は？」

彼は「ポール」と答えたが、私はまた「私はあなたを信じない。」と答え、

「住まいはどこ？」と尋ねた。彼が

その質問に答えた時、私はまたもや

「それも信じられない。」と言った。

彼の反応を見せたかった。

彼は怒っていた。私はこう続けた。

「少し怒っているようですね。なぜか分かりますか？あなたが言ったことを私が信じなかったから、あなたは怒ったのですね。名前はポールだと言った

が、私は『あなたを信じない。』と言った。つまり、私はあなたを嘘つきだと思

っていることになる。名前はポールだと嘘の名前を言って私をだまそうと

している。」

それから彼にこう話した。

「もし彼のような普通の人が、自分の言葉を信じてくれないことで侮辱を感じるなら、神のことは信じないこと

によって、人は全能の神をどれほど侮辱することになるだろうか？そうする

ことで、彼は、神が信用に値せず、嘘つきでだます者だと言っていることにな

る。」

聖書には「神を信じない者は、神を偽り者とするのです。」（ヨハネ

5:10）とある。」

また、こうも言っている。

「兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける

神から離れる者がないように気をつけなさい。」（ヘブル3:12）

マルチン・ルターは言った。

「神にとつての大きな侮辱とは、神の約束を信じないことだ。」

でも、神を信じることに難しさを覚える。と人々が言うのを何度も聞いた。

彼らは自分たちの言葉の裏にある意味を理解してはいない。その同じ人々が、

天気予報を信じ、新聞を信じ、そして飛行機に乗るたびに、一度も会ったことのないパイロットに自分の命をあず

ける。私たちは毎日信仰を働かせる。車のブレーキを信用し、歴史の本や医学書を信用し、エレベーターを信用する。しかし、エレベーターは下にも連れて行く。歴史の本は間違っているかもしれない。飛行機は押しつぶされることもある。それでは、全能の神の正確で真実な約束にどれほど信頼しなければならぬだろうか？神は私たちを決してがっかりさせない。もし信頼するならば。

私は、皮肉屋が「聖書は間違いだらだけだ。」と言ったのを何度も聞いたことがある。確かにそうだ。最初の間違いは、人間が神を拒否したことだ。そして聖書には、何度も同じような悲劇的な間違いを犯す男性や女性について書かれていて、また、矛盾するようなくとも多く書かれている。例えば、聖書には

「神にとつて不可能なことは一つもありません。」（ルカ1:37）

とある。全能の神にできないことは何もないと私たちは教えられている。

しかし、それと同時に、「神は・・偽ることができません。」（ヘブルの2:8）とも教えられている。神にできないこともある！明白な『間違い』が聖書の中にはある。このジレンマに対する答えは、どこにでもいるミミズから得られる。

ミミズを食べることが私にとって不可能であることが分かるだろうか？以前、ミミズを食べる男性をテレビで見ることがある。彼はトーストにバターをぬると、その上に、生きていて、太っていて、くねくねと身をよじらせ、血色のいいミミズの缶詰を流し入れた。彼はナイフとフォークを取って、動く食べ物を慎重に切り分け、食べてしまった。それを見て、私は気分が悪くなった。うんざりしてしまった。冷たくて生きているミミズをかんでいることを想像するだけで、すぐぞつとずるし、不愉快だ。たとえ食べる人を見たとしても、私は絶対に食べられないとすぐに言える。私にとってははいやでたまらないのだ。私の主張を実証するために、“不可能”という言葉

を強調する。

調する。

調する。

調する。

調する。

調する。

調する。

調する。

調する。

嘘、欺き、偽証などは、神にとっては非常にぞっとするものであり、不愉快であり、ご自身の聖い性質に反対するものである。聖書は、その主張を実証するために、『不可能』という言葉を強調する。

神は偽ることができないし、偽ったこともないし、これからも偽ることがない。

つまり、何度もがっかりさせる世界にいながら、私たちは神の約束に完全に頼り、信じ、期待することができる。神の約束は正確で、信頼でき、明白で、真実で、信用でき、頼りになり、忠実で、絶えることがなく、頼みになり、揺らぐことがなく、魂のいかりである。言い換えるならば、そのことを本当に信じていることができる。

それゆえに、目隠しの状態でも、備えがなくても、神の力強い御手の中に自分自身を投げ出すことができる。神は決してあなたをがっかりさせない。